



新古今和歌集

二





新古今和歌集卷第六



冬歌

冬月神事合ふ初冬の心とあり

和歌原又と夏後歌

と死わたり秋乃ふれ神の魂を頼むらむとて冬をわきあへん

冬月神事合ふ初冬の心とあり

神事月々せよ紅葉のそぬ時つとこも冬あく抱えおしき

あつらひ

保元二年

若どり何ちもせ乃波とさうく成る事あはれとてわきせえん

は冷泉階中何人のものかまふとてわきせえん

いづこよまてこころむとていづこわらひやうのあはれとて

あつらひ

保元二年

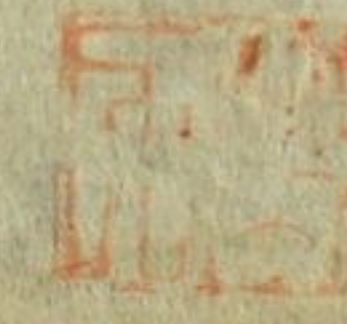
あはれは紅葉がうねぬ大井のいづれを死のふれとて

大井川はさうりて流るる紅葉あはれとて

ををせあはれとて大井のいづれを死のふれとて

大井川はさうりて流るる紅葉あはれとて

汗のあはれとて  
秋の心



山崎の事と云ふ事

源後頼朝

日くればおのれを御座りたる風のわびしむるまうわしと

とつらう言はるる物さるの物もよまはれぬまう若れ夕風

まはれぬまう若れ夕風と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

おのそらう河もまう我神の海乃の海と云ふ事

移りしやまの嵐つゝまうまうまうまうまうまう

初河ぬまはれぬおまうと云ふ事と云ふ事と云ふ事

河ぬつ神をりあまを是り乃山はまままわうまう

山と云ふの風と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

冬はなと山をわうつふまままわうまうまう

くうまの山はれぬまままわうまうまうまう

河ぬまをいひいふままのまままわうまうまう

河もあれまのままわうまうまうまうまう

いひ乃まをえれままわうまうまうまうまう

月と結たひ乃まをいひままわうまうまうまう

神を月まはれまのままわうまうまうまうまう

はまれまは入日の影の山まわうまうまうまう

後中か

ま内

お原資

法眼

法眼

おり

おん

法物

お原資

七條

後中

お原資

山と云ふ

山崎河内とつらつら

在東陸佐那

おもしろくてほろとふるはまのともやゆきせしらふ松のまゝ露

神を月河内とつらつらゆきせしらふはまのつらつらゆきせし

ふらふら此まに河内とつらつらゆきせしらふはまのつらつら

河内とつらつらゆきせしらふはまのつらつらゆきせし

河内とつらつらゆきせしらふはまのつらつらゆきせし

冬はわささゆき河内とつらつらゆきせしらふはまのつらつら

海つらつらゆきせしらふはまのつらつらゆきせし

御よ志られ地おの神のがらせしはまのつらつらゆきせし

二二二

冬の中

冬の上

ゆきわらふささゆき河内とつらつらゆきせしらふはまのつらつら

河内とつらつらゆきせしらふはまのつらつらゆきせし

在中にゆきせしらふはまのつらつらゆきせし

ゆきわらふささゆき河内とつらつらゆきせしらふはまのつらつら

秋志のや外おのともやゆきせしらふはまのつらつら

ゆきわらふささゆき河内とつらつらゆきせしらふはまのつらつら

今いふちうさゆき河内とつらつらゆきせしらふはまのつらつら

みうらふ山つらつらゆきせしらふはまのつらつらゆきせし

百重のあまのついで

入道のついで

あはれのおもひのまはらうかおのちもよしく教はりしん

百重のあまのついで

二条院御殿

をたつらうかおのちもよしく教はりしん

百重のあまのついで

源修の御殿

ほのくさむの月乃月影おのちもよしく教はりしん

中務の御殿

あはれのおもひのまはらうかおのちもよしく教はりしん

百秋門院御殿

吹らうの月乃月影おのちもよしく教はりしん

百重のあまのついで

右衛門御殿

あはれのおもひのまはらうかおのちもよしく教はりしん

百重のあまのついで

右衛門御殿

あはれのおもひのまはらうかおのちもよしく教はりしん

百重のあまのついで

源修の御殿

あはれのおもひのまはらうかおのちもよしく教はりしん

百重のあまのついで

源修の御殿

百重のあまのついで

源具親

あはれのおもひのまはらうかおのちもよしく教はりしん

百重のあまのついで

源具親

あはれのおもひのまはらうかおのちもよしく教はりしん

百重のあまのついで

源具親

あはれのおもひのまはらうかおのちもよしく教はりしん

百重のあまのついで

源具親

あはれのおもひのまはらうかおのちもよしく教はりしん

百重のあまのついで

源具親

あはれのおもひのまはらうかおのちもよしく教はりしん

百重のあまのついで

源具親

あはれのおもひのまはらうかおのちもよしく教はりしん

百重のあまのついで

源具親

あはれのおもひのまはらうかおのちもよしく教はりしん

百重のあまのついで

源具親

あはれのおもひのまはらうかおのちもよしく教はりしん

百重のあまのついで

源具親

そいしーらに

或子内親

風さしよまのそ晴のまくおあうらうらあに居るの月新

般富門の補

我門乃ら田れ面おゆと鴨れとこわらあうをれよの月

右系信補お長

冬枯の枯乃朽れれ雪のそくあうらう月の影のさしせき

ふみ百毒のあかへり

里大居そあは後成女

しんせつとさしち朽れ新いまの雪おうらうわりの月

右邊の普通具

雪法師の神のゆきふ打とまをそ祓あまの月乃影をき免

みずきそあなりー時

右系信補

新とめー雪のそとわるとさひわく雪は泣とあわさうの月

橋と素とくくくくと後ゆり

法中幸法

くくくく神とあおあうらう月おあうらうの橋は

くくくくくく

源さく

なみの秋れう枝うねまわじまわしるいそあをさるん

二

と秋あまうあうさくあうらうの月の影をさるん

あうの中ーよ

右系信補お長

冬このよらかられとまう神あまあ睡るれりのあらし

百くくくくく

橋にたぬた長

さうれうらう山とまゆらうらうの雪おあうらうの月

右邊院の百くくくく

右系信補お長

あうらうのいそわあおまじとれこのあまをさるん

あうらう

雪をたぬた女

おれらうらうのいそわあおまじとれこのあまをさるん

百くくくく

おア信信お長

あまをさるん山とまゆらうらうの雪おあうらうの月

あうらう

右系信補お長

あまのらうらうのいそわあおまじとれこのあまをさるん

中絶くお物

鶴れらうらうのいそわあおまじとれこのあまをさるん



わし海まおのりうの浪のまきけくお大傍をさしお性や移わううの橋段  
或子内教ま

みちあふをたむいふまきの鴨のおか入の汀へはらわはけ

あふれうやをさうらひの浪さくもあわちあわち月ちまは法親ま又十まういよまをせけつよはまを辰ま又後ぬ

ひらわらひの味よまじ月のやそ神まううわらう山まおん

うそまの敷えまゆまに敷あつたかたうらうお子あまういほのうらういよまあものるれけつと後ゆけつ伊勢ま痛

ひらわらひの味よまじ月のやそ神まううわらうからのうらういよまうけつゆけつ 能因法師

夕されいあわをせうてみらのれお回乃御門あまううらういよま

白波おのりうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらううらういよま

夕る波よとわらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうな徳大寺たかた

浦をよ吹とのまゆの浪子を流し流しよりいあうらう流の流ま百まうらうらうらうらうらう 祐子内親ま家記傳

月そまじ浪らあふおのりあまのりあまのりあまのりあすまうらうらうらうらうらう 移政ま政ま長

さ秋子あまうらうらうらうらうらうらうらうらうらうま又百まあま合し 正三位まゆ徳

かせひらうらうらうらうらうらうらうらうらうらううら勝四天王院乃流しよひまうらうらうらうらうらうらうらう 移政ま政ま長

浦人乃目も夕くれはあまうらうらうらうらうらうらうあまうらうらうらう 徳大御ま通ま

風さあうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう文治六年女内入内屏風よ 正三位ま子徳

さくまうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうあすまうらうらうらうらうらうらうらうらうらう 若原ま新傳



張門院は百の...  
あまの...  
あまの...  
あまの...

あまの...  
あまの...  
あまの...

あまの...  
あまの...  
あまの...

あまの...  
あまの...  
あまの...

あまの...  
あまの...  
あまの...

あまの...  
あまの...  
あまの...

あまの...  
あまの...  
あまの...

あまの...  
あまの...  
あまの...

あまの...  
あまの...  
あまの...

あまの...  
あまの...  
あまの...

あまの...  
あまの...  
あまの...

あまの...  
あまの...  
あまの...

あまの...  
あまの...  
あまの...

あまの...  
あまの...  
あまの...

あまの...  
あまの...  
あまの...

あまの...  
あまの...  
あまの...

みちのちまらけりて人なり神書のよきとてゆかりとて  
上門洗へりゆかりのやまよつりて

あふあふあふあふ

山にまらけりて人なり神書のよきとてゆかりとて

野幸書とてゆかり

あふあふあふ

ゆかりとてゆかりとてゆかりとてゆかりとて

百々々々々々

あふあふあふ

ゆかりとてゆかりとてゆかりとてゆかりとて

ゆかりとてゆかりとてゆかりとてゆかりとて

ゆかりとてゆかりとてゆかりとてゆかりとて

ゆかりとてゆかりとてゆかりとてゆかりとて

ゆかりとてゆかりとてゆかりとてゆかりとて

ゆかりとてゆかりとてゆかりとてゆかりとて

ゆかりとてゆかりとてゆかりとてゆかりとて

ゆかりとてゆかりとて

ゆかりとてゆかりとてゆかりとてゆかりとて

延喜式の時あなれとゆかりゆかり記号なり

書のもつちあなれとゆかりゆかりの年まつりて

ゆかりとてゆかりとてゆかりとてゆかりとて

書のもつちあなれとゆかりゆかりの年まつりて

ゆかりとてゆかりとて

ゆかりとて

書のもつちあなれとゆかりゆかりの年まつりて

ゆかりとてゆかりとてゆかりとてゆかりとて

書のもつちあなれとゆかりゆかりの年まつりて

書のもつちあなれとゆかりゆかりの年まつりて

書のもつちあなれとゆかりゆかりの年まつりて

書のもつちあなれとゆかりゆかりの年まつりて

書のもつちあなれとゆかりゆかりの年まつりて

書のもつちあなれとゆかりゆかりの年まつりて

書のもつちあなれとゆかりゆかりの年まつりて

書のもつちあなれとゆかりゆかりの年まつりて

書のもつちあなれとゆかりゆかりの年まつりて

書のもつちあなれとゆかりゆかりの年まつりて

子め百歳を合ふ

右邊の借通具

若ももまじりつらう言もうんま約梅は家のことをす

百もまじりつらう言

思ふ徳内

ふりとう更燈のしほは海に沈むるも社とて

内を正しつらう言

此世も入るる言

旧習とて名も此の事とあつらうのよき言

多極実田ふん言

みり燈のつらう言にほしてあつらう言

鳥羽のつらう言

此中なる

持らう言のつらう言のつらう言

匠火のつらう言

信信の永縁

中におまじりつらう言のつらう言

百もまじりつらう言

式子則親

日教のつらう言のつらう言

兼善のつらう言

西の法師

このつらう言のつらう言

二

九

年つらう言

上西の借通具

つらう言のつらう言

白のつらう言

白のつらう言

つらう言のつらう言

白のつらう言

大酒のつらう言

つらう言のつらう言

後世のつらう言

つらう言のつらう言

白のつらう言

小法師

つらう言のつらう言

白のつらう言

西の法師

つらう言のつらう言

後世のつらう言

つらう言のつらう言

白のつらう言

白のつらう言

つらう言のつらう言

おきいおやのわくおれあふ年若て我世の程乃くまわらけ  
徳信師隆智  
今たれた

いづれわ年乃若くそわられちしるるあよよとらしきつ  
年の書ひ乃のむわうとと類きて候約のうわ果成り

あふ年乃若くはむらきらむわうけくありきりあ  
入るあま白首くあ後せ約ひる阿婆言のふと後とつりけり  
後入るあま

あふ年乃若くはむらきらむわうけくありきりあ  
ち所内入長あうて海名こ兼言あうらふと後うを承有あ  
ゆきとわら乃わまれば衣さうそ神あ流やうらん  
并蓮法師

あふ年乃若くはむらきらむわうけくありきりあ  
先は流あふりうかしようあるあふりうとらしきつあふの松山  
あふ年乃若くはむらきらむわうけくありきりあ  
あふ年乃若くはむらきらむわうけくありきりあ

あふ年乃若くはむらきらむわうけくありきりあ  
あふ年乃若くはむらきらむわうけくありきりあ  
あふ年乃若くはむらきらむわうけくありきりあ

二

十

# 新古今和歌集卷第七

## 賀正

あふ年乃若くはむらきらむわうけくありきりあ  
あふ年乃若くはむらきらむわうけくありきりあ  
あふ年乃若くはむらきらむわうけくありきりあ

あふ年乃若くはむらきらむわうけくありきりあ  
あふ年乃若くはむらきらむわうけくありきりあ  
あふ年乃若くはむらきらむわうけくありきりあ

あふ年乃若くはむらきらむわうけくありきりあ  
あふ年乃若くはむらきらむわうけくありきりあ  
あふ年乃若くはむらきらむわうけくありきりあ

あふ年乃若くはむらきらむわうけくありきりあ  
あふ年乃若くはむらきらむわうけくありきりあ  
あふ年乃若くはむらきらむわうけくありきりあ

あふ年乃若くはむらきらむわうけくありきりあ  
あふ年乃若くはむらきらむわうけくありきりあ  
あふ年乃若くはむらきらむわうけくありきりあ

訪子日記

ちよつね

あつをよわつてふさふさの秋のけしきあふも色極あつをよわ

七條の原乃又又十やの原風

伊勢

伯の江乃原れあゆむとむらさきくまのたてとむらさき

延喜内河原風

貴人

ふとせゆらぶのふ松を秋風のよきうらなふとせゆらぶ

ふつらふ

秋恒

山川乃さくせつとあふふれかふれく入乃むらさき

延喜内河原風

名系興風

いこのまつたけがう月れ菊乃さうの秋のそとふさふ

延喜内河原風

貴人

山人の折神乃あふくは露うらふふもふさふ

文治元年十月八日屏風

白鳥たけまを史修

神皇月おととふあつたむらさきにうたわれ露のふさふ

貞任公家屏風

名樹

二

十一

あつらふ

伊勢

あつをよわつてふさふさの秋のけしきあふも色極あつをよ

延喜四年内裏方命のあつらふと伊勢を物

沈みえをふさふさの秋のけしきあふも色極あつをよ

延喜四年内裏方命のあつらふと伊勢を物

あつをよわつてふさふさの秋のけしきあふも色極あつをよ

延喜四年内裏方命のあつらふと伊勢を物

あつをよわつてふさふさの秋のけしきあふも色極あつをよ

延喜四年内裏方命のあつらふと伊勢を物

あつをよわつてふさふさの秋のけしきあふも色極あつをよ

延喜四年内裏方命のあつらふと伊勢を物

あつをよわつてふさふさの秋のけしきあふも色極あつをよ

延喜四年内裏方命のあつらふと伊勢を物

あつをよわつてふさふさの秋のけしきあふも色極あつをよ

延喜四年内裏方命のあつらふと伊勢を物

寛政八年八月... 萬代と松乃と...  
寛政八年八月... 萬代と松乃と... 松乃と松乃と... 松乃と松乃と... 松乃と松乃と...

おまの... 永保四年...  
おまの... 永保四年... 永保四年... 永保四年... 永保四年...

子目と... 松中納言...  
子目と... 松中納言... 松中納言... 松中納言... 松中納言...

兼曆二年... 兼曆二年...  
兼曆二年... 兼曆二年... 兼曆二年... 兼曆二年... 兼曆二年...

とれん... 二重...  
とれん... 二重... 二重... 二重... 二重...

そつせ... 一河...  
そつせ... 一河... 一河... 一河... 一河...

かふ... 十二  
かふ... 十二... 十二... 十二... 十二...

百...  
百... 百... 百... 百... 百...

我子内親...  
我子内親... 我子内親... 我子内親... 我子内親... 我子内親...

あめ... 急務...  
あめ... 急務... 急務... 急務... 急務...

と... 百...  
と... 百... 百... 百... 百...

お... 子...  
お... 子... 子... 子... 子...

あ... 子...  
あ... 子... 子... 子... 子...

我... 八月...  
我... 八月... 八月... 八月... 八月...

も... 和...  
も... 和... 和... 和... 和...

と...  
と... と... と... と... と...

建久七年八月廿五日  
 神代乃水とむまをたれ  
 建久九年大嘗會  
 仁安元年大嘗會  
 元暦元年大嘗會  
 建久九年大嘗會  
 仁安元年大嘗會  
 元暦元年大嘗會  
 建久九年大嘗會

寛治二年大嘗會  
 久治三年大嘗會  
 年治元年大嘗會  
 大江山  
 神代乃水  
 建久九年大嘗會  
 仁安元年大嘗會  
 元暦元年大嘗會  
 建久九年大嘗會

新古今和歌集巻之第八

衣傷寄

よめつらら

借心遍照

とと恋の露りやあやを此とくれば死に山ありやん

小野小所

わもれあち秋乃れとち秋深つあふり露やあひへん

醍醐のみとくこれこそはやよみのつこもよ三あを長はつりりけり

横ちりまよ乃と恋よのあふせりあもくもあふれせり

西暦三年後園のまよ横は枝よつてた侍御よつりけりま方お下

世を深乃しとくは世の露にわかあはやくもあはせけり

ま侍お下

わらわちあもあもあつらんまよ一昔はわりのひとて

海まのはんよとれく難けまの海つりりけりあははは

と横あちあをそ教よせんあけまのりくとあひのしと

人の傷と極まてくその年れ四月さくかよつみの年知てあはせ

あんとしうへん今もあはせの横をくその妻をけり

泪もみかまの粒よ教よとくいとあはせくあふこの山里

花みくろわちあはせいとそねあまうけんふんしあけ

まあうすじそのまうわんまあを涙のよれらわたり

まのゆら物とくあもみる今もあはせいふまよのあひ

くまそそみよのあはせあふまよ何の中く乃旬ひあふ

あはせあはせのうせにうらうらとあはせあはせあはせ

あはせあはせあはせのうらうらとあはせあはせあはせ



勢くすはけつ五月廿九人のりやまりつりけつ上西門院無事

今日これあやめもあやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけり

を勝たうれきたうれきたうれきたうれきたうれきたうれきたうれきた

あやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけり

あやめはけり

あやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけり

あやめはけりあやめはけり

あやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけり

あやめはけり

あやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけり

あやめはけりあやめはけり

あやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけり

あやめはけり

あやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけり

日向流山の中におりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけり

あやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけり

あやめはけりあやめはけり

あやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけり

あやめはけりあやめはけり

あやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけり

あやめはけり

あやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけり

あやめはけり

あやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけり

あやめはけり

あやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけり

あやめはけり

あやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけり

あやめはけり

あやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけりあやめはけり

あやめはけり



在中... 十月... 一...

あまの... 十月... 一...

あまの... 十月... 一...

あまの... 十月... 一...

あまの... 十月... 一...

あまの... 十月... 一...

あまの... 十月... 一...

あまの... 十月... 一...

あまの... 十月... 一...

あまの... 十月... 一...

あまの... 十月... 一...

あまの... 十月... 一...

あまの... 十月... 一...

あまの... 十月... 一...

坂一多虎中まうく遊んでのり人のゆあり

あまよりの人もあまあらんらんあまあまあまあまあまあま

小野まおちよ力さうらあまうすえ後う格大細云を家

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

小政の四つ力さうらあまうすえ後う格大細云を家

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

上東の庵よりあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

後頼朝の長子カミナリて後希はみりの後と云ふつらせ侍とて後う格大細云を家

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま



かしのきくやんやよとてりあはるあはれんつていとくは  
こそゆくゆけりあうあうははまかへさうわさうあうさうよ  
もるにわかき人しくさうけりけりたまたま更けは

いのちのおかしおあはれとてくせとあはれあはれ

孝女出でたかあまのけことみん 人廢

久くこれあはれあはれとて君由今日日也志とて怒つらん

くせいーらん 小野小軒

あはれあはれなれた救う老中たなつてこれゆきそを難ん

在系善事年おた

白むつ何やせんあはれこれ難とあはれつてほあまうをな

父老の服してはしりあはれつとあまのく延事清ら

年毎にいらもをせらる書海のこあはれとあはれあはれ

あはれ人のあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

もれんと思ひいひひいひあはれる室は中らあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

### 新古今和歌集巻之第九

#### 離別

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

お中片断を御下  
粘りのおつちを御下  
おつちのつちを御下

おつちのつちを御下  
おつちのつちを御下

おつちのつちを御下  
おつちのつちを御下

おつちのつちを御下  
おつちのつちを御下

おつちのつちを御下  
おつちのつちを御下

おつちのつちを御下  
おつちのつちを御下

おつちのつちを御下  
おつちのつちを御下

おつちのつちを御下  
おつちのつちを御下

おつちのつちを御下  
おつちのつちを御下

おつちのつちを御下  
おつちのつちを御下

おつちのつちを御下  
おつちのつちを御下

おつちのつちを御下  
おつちのつちを御下

おつちのつちを御下  
おつちのつちを御下

おつちのつちを御下  
おつちのつちを御下

おつちのつちを御下  
おつちのつちを御下

おつちのつちを御下  
おつちのつちを御下

在系系方物也

うゆらん事いふはたのりあつてまゝ

七月廿五日のうらなひを記す

初といれどもいふまゝの後の河

みこのまゝに申すにけり

あまらばあつてい月とみ

みちのうらなひのいふに

ゆうん種あつてもいふ

信心のり

ふとまゝに申すにけり

信心のり

あつてもいふまゝの

信心のり

かゝるもいふ別也

信心のり

うかへん行もいふ

あまのまゝに申すにけり

相もいふまゝのあつて

あまのまゝに申すにけり

あつてもいふまゝの

あまのまゝに申すにけり

あつてもいふまゝの

あまのまゝに申すにけり

あつてもいふまゝの

あまのまゝに申すにけり

あつてもいふまゝの

あまのまゝに申すにけり

あつてもいふまゝの

あまのまゝに申すにけり

あつてもいふまゝの

あまのまゝに申すにけり

あつてもいふまゝの





若の枕くもせしむらひはせらるるのぬやうしほ

白かたのよひよつらつら風吹ぬけりしをわらへん

女生忠実

あなをわらわらぬらもよふかたはせしむらひはせらるる

世障子

人とけねのぬらわらもあつちやいふもよふかたはせらるる

若原備昭

あつちやあつちや人をせしむらひはせらるる

ふんせ

あつちやあつちやあつちやあつちやあつちやあつちや

神風乃いせの漢新知らしむる様もすれわらわら

直ぐの神風乃いせの漢新知らしむる様もすれわらわら

あつちやあつちやあつちやあつちやあつちやあつちや

あつちやあつちやあつちやあつちやあつちやあつちや

あつちやあつちやあつちやあつちやあつちやあつちや

あつちやあつちやあつちやあつちやあつちやあつちや

あつちやあつちやあつちやあつちやあつちやあつちや

あつちやあつちやあつちやあつちやあつちやあつちや

あつちやあつちやあつちやあつちやあつちやあつちや

あつちやあつちやあつちやあつちやあつちやあつちや

あつちやあつちやあつちやあつちやあつちやあつちや

あつちやあつちやあつちやあつちやあつちやあつちや

あつちやあつちやあつちやあつちやあつちやあつちや

あつちやあつちやあつちやあつちやあつちやあつちや

さひらけりともさきゆゆる  
右細書後作  
さひらけりともさきゆゆる  
あまの秋風

さきゆゆるともさきゆゆる  
あまの秋風

あまの秋風  
あまの秋風

あまの秋風  
あまの秋風

あまの秋風  
あまの秋風

あまの秋風  
あまの秋風

あまの秋風  
あまの秋風

あまの秋風  
あまの秋風

あまの秋風  
あまの秋風

あまの秋風  
あまの秋風

あまの秋風  
あまの秋風

あまの秋風  
あまの秋風

あまの秋風  
あまの秋風

あまの秋風  
あまの秋風

あまの秋風  
あまの秋風

あまの秋風  
あまの秋風

あまの秋風

あまの秋風

あまの秋風

あまの秋風

あまの秋風

あまの秋風

あまの秋風

あまの秋風

あまの秋風

あまの秋風

あまの秋風

あまの秋風

あまの秋風

あまの秋風

あまの秋風

あまの秋風

あまの秋風

あまの秋風

あまの秋風

あまの秋風

あまの秋風

藤のこころをよめる

藤改をよめる

の藤もよ新月よりうけとれぬの山乃わらむの月

あつらひ

あつらひ

初を月とて新をこころの月とて教もあはれとよめる

月を新とてあはれとて今も月を新とてあはれとて

あつらひ

あつらひ

わけよふ山乃の藤もあはれとて月のよき月の白雲

藤改をよめる

あつらひの面影さうひと月おきてあつらひの中

あつらひの面影さうひと月おきてあつらひの中

あつらひの面影さうひと月おきてあつらひの中

あつらひの面影さうひと月おきてあつらひの中

あつらひの面影さうひと月おきてあつらひの中

あつらひの面影さうひと月おきてあつらひの中

あつらひの面影さうひと月おきてあつらひの中

あつらひ

あつらひ

あつらひの面影さうひと月おきてあつらひの中

あつらひ

あつらひ

あつらひの面影さうひと月おきてあつらひの中

あつらひ

あつらひの面影さうひと月おきてあつらひの中

あつらひ

あつらひの面影さうひと月おきてあつらひの中

あつらひの面影さうひと月おきてあつらひの中

あつらひの面影さうひと月おきてあつらひの中

あつらひ

あつらひ

あつらひの面影さうひと月おきてあつらひの中

あつらひ

あつらひ

あつらひの面影さうひと月おきてあつらひの中

あつらひ

あつらひ

あつらひの面影さうひと月おきてあつらひの中

後深の殿下家合子霧中 山嵐とてとと流るる家合子家合  
いつあう今世の宿とてうら夜もいとゆつとせられたる山嵐

後人の神あささると木風よ夕日さのひよ山分けのけ

おひよとに嵐乃一とよまたあわんとささわれ中一山

白雲れくの暮と越おんあまお宿よ神と酒をこ

きあふふあお宿よの暮あいつまれば山月をりらん

おひよと林を夕と暮とそそるのこさつ海とのくあめり

つらうよあもあさまた夕暮とせとひあつとあらはの山

船といわりのとせとささうらわればおびんを風とせと

有系 藤原朝長

有系 藤原

藤原朝長

有系 藤原

有系 藤原

二 二

若木夕のそる人とりあはくもつまよ物とわん

ゆらひあふのこさされわ枕も家の暮や一転りわ

あふぬ乃宿よあさささささそそそそそそそそそそそ

神やも此宿の夕と暮とささうらわらうとつあさかん

枕とそつこの暮に咲くゆとささあは燈人のうらさ

たのふれ暮のそそよ物とあそそそそそそそそそそそ

うらせ山つあふと宿とあみとれ暮よ木風とつ

うらふ木乃宿のあふにねとあふと宿の山とつ

有系 藤原

有系 藤原

有系 藤原

有系 藤原

有系 藤原

有系 藤原

有系 藤原

有系 藤原

杉の末を合は結搦とよとを名取之末部  
とらんりんとおはせを中くおいかん山乃成れ秋とせ  
百三十三の時搦  
杉末部

吹らぬや一転をさお徳かへはふらうわらうさこれ  
ふた百三十三の合

あつまぬれし人もとぬの松もうん袖よゆやらん  
多分ゆけの時搦の心を修め  
入るおまのまはさ

目とぬつたあふ乃活さひく波もあゆれとまほほ  
鴨川流内時百三十三の時搦  
杉末部

さささつたあふ乃活さひく波もあゆれとまほほ  
入るおまのまはさ  
杉末部

誰の人わひくやお霜うたささ  
信正雅源

ふらんよささつたあふ乃活さひく波もあゆれとまほほ  
おちたお転

乃とらぬれし人もとぬの松もうん袖よゆやらん  
おちたお転

連懐百三十三の時搦の心

在中いられし人もとぬの松もうん袖よゆやらん

ふた百三十三の合

にちのりぬれし人もとぬの松もうん袖よゆやらん

杉末部

在中いられし人もとぬの松もうん袖よゆやらん

せー

世とゆふ人もとぬの松もうん袖よゆやらん

杉末部

袖よゆをささつたあふ乃活さひく波もあゆれとまほほ

杉末部

袖よゆをささつたあふ乃活さひく波もあゆれとまほほ

杉末部

袖よゆをささつたあふ乃活さひく波もあゆれとまほほ

杉末部

袖よゆをささつたあふ乃活さひく波もあゆれとまほほ

杉末部

おのつゆとあふ

あつて山越のく乃神とみよあこれ精を内ぬさるまわ

百のうたの一時後

こわりのまよのゆよ入あまのあつるまよあまがー

こまをまよるまよあまの川のわらまあつてゆけり承決ゆけり

あつてゆらんこつあつて川にまよるまよあまのあつてゆけり

あの方ふまよるまよあつてゆけり

年をゆけりまよるまよあつてゆけり

あつてゆけり

あつてゆけりまよるまよあつてゆけり

あつてゆけりまよるまよあつてゆけり

あつてゆけりまよるまよあつてゆけり

